

<要約版>

滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和6年度第1回会議

日 時 令和6年(2024年)7月26日(金)

14時00分～16時30分

場 所 琵琶湖博物館1階セミナー室

会 議 次 第

1 開 会

2 報告事項

- (1) クラウドファンディングの実施について
- (2) 第32回企画展示について
- (3) 湖上交通を活用した体験型観光・環境学習事業について

2 議 題

- (1) 第三次中長期基本計画令和5年度評価について
- (2) その他

1 開会

○司会（杲副館長）から定足数と会議成立の報告の後、会長が議事を進める。

2 報告事項

○榊永企画・広報委営業課長から資料に基づき説明

〈第2弾クラウドファンディングの実施について〉

- ・第1弾クラウドファンディングの報告、796人から1159万3000円の寄付を頂いた。
- ・第2弾のクラウドファンディングは、ビワコオオナマズ水槽とコアユ水槽の再建について支援をお願いするもので8月下旬から開始予定。

〈企画展示について〉

- ・7月20日より第32回企画展示として、「湖底探検Ⅱ—水中の草原を追う—」を開催している。

〈湖上交通を活用した環境学習について〉

- ・おごと温泉観光協会、株式会社壱兵衛造船所と連携し、おごと温泉港から草津烏丸半島港まで船でお越しいただき琵琶湖博物館に来館いただく事業を7月28日から夏休みの日曜日、お盆含め、全6回実施する。

〈質疑応答〉

- 委員：クラウドファンディングについて、スマホが使えない方への対応はどうか、湖上交通の事業について、ターゲットと媒体のアクセスのしやすさを広報で考えているのか。
- 榊永企画・広報委営業課長：クラウドファンディングについてはチラシに振り込みの方法等記載しており、スマホがなくても支援いただける。船については、おごと温泉の人たちがチラシをつくって広げている。琵琶湖博物館ではSNSで発信していこうと思っている。
- 委員：クラウドファンディングのリターンはホームページにアクセスしないとわからないのか。
- 榊永企画・広報委営業課長：配布するチラシには、大まかなリターンについての紹介は掲載するが、全部は載せられないため、ホームページを見ていただく必要がある。
- 委員：無料券の配布や、琵琶湖博物館でしか手に入れないような写真を壁紙としてあげるとか、ここでしか手に入らない、または来館につながるような仕掛けはできない

か。

榊永企画・広報営業課長：ふるさと納税型は、対価的なプレゼントは渡せない事情がある。

招待券についても金券扱いとなるためお渡しできない。感謝状のポスターも感謝状といって渡している。壁紙に関してはできることなので進めていきたい。

3 議題

(1) 第三次中長期基本計画令和5年度評価について

○会長：令和5年度について内部評価について、事業目標の項目が6つあるので、説明および質疑を2項目ずつ区切って行う旨説明

【事業目標1・2についての説明】

○事務局（研究部長）：事業目標1についての説明および進捗状況の説明。

事業目標1：「琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介」

重点事業1-1「世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値高める研究の推進」

今回の企画展示も総合研究の成果をいかしたもの。それ以外に、伊吹山の植物についてニュースになるようなものも発信している状況。

重点事業1-2「研究成果を国内外に発信し、ビワコの魅力を人々に伝える」

J-STAGEで研究報告書を公開しているが、ダウンロード数が13,000件を超えた。PDFのダウンロード数が非常に増えている。

重点事業1-3「研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化」

備品の整備は進展が難しい。

○事務局（資料活用係長）：事業目標2についての説明および進捗の説明。

事業目標2「資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備」

重点事業2-1「標本・資料の管理体制の強化」

予算との関係もあり、収蔵庫空間の改善は今の予算では難しい状況。今年度は、トラックヤードの入口の改修をする予定。

重点事業2-2「標本・資料の整理の推進と公開による利用促進」

画像データを順次公開しており、高校生やメディア関係者に利用されている。琵琶湖特有の魚の資料がほしいという要望をいただいているところ。

重点事業2-3「ICTを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出」

DX事業が始まったことを評価している。

【事業目標 1・2 の質疑応答】

- 委員：来るのが難しい特別支援学校の子たちに、来れなくても見せてあげたり、楽しめたり、そういうことは進んだのか。画像でわかる展示とか、視覚障害の人たちには音で楽しんでもらうとか、匂いや風を感じる展示などもう一歩進んでもらって外に出す工夫をしていただきたい。
- 事務局（資料活用係長）：DX 事業で、目が見えにくい方、耳が聞こえにくい方でもいろんなことが聞けるようなコンテンツを開発中。また、ウェブ GIS の事業については、地図上に昔にいた生き物の分布などをしめすようなことも、昔と今というコミュニケーションに使うなどのことも目指している。
- 委員：標本の管理体制の強化について、空調の修繕については、現状は、先送りで持ちこたえられるのか、切迫度合いはどうか、県の方も、議員も資料保存の大切さについてはわかってもらえないことが想像されるが現状はどうか。
- 事務局（資料活用係長）：空調設備の老朽化により、現状としては湿度管理がとても難しい状況。予算要求は積極的に行っている。
- 委員：大型備品の軟 X 線装置というのは、どういったものか。
- 事務局（研究部長）：一種のレントゲン装置のようなもの。

【事業目標 3・4 の説明】

- 事務局（環境学習・交流係長）：事業目標 3 について説明。
- 事業目標 3 「みんなで学びあう博物館へ」
- 重点事業 3-1 「幅幅広いニーズに応える交流事業の充実」
- イベント系事業と連携系事業を重視しながら進めた。参加イベントを 3 つを中心に進め、1 つは大型のイベントを 3 件実施し、フィールドレポーター調査においては、一般の方が 2,893 名ご協力いただいた。地域連携系の事業は 6 件実施した。
- 重点事業 3-2 「出会いの場の創出」
- 主にびわ博フェスを通じで実施し、そこでは新たにトーク型の発表会を 3 分間トークを行った。
- 重点事業 3-3 「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援
- 研修と体験学習を中心としながら、教員の方に行った。今後の課題としてはアンケート調査を含めて、工夫の仕方や充実の仕方を進めていきたい。

○事務局（展示係長）：事業目標4について説明。

事業目標4「もっと使いやすい博物館へ」

重点事業4-1「誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長」

ポケット学芸員の内容を少しずつ充実させている。

重点事業4-2「「観る」展示から「観る+使う」展示への成長」

大きな変化はないが、コンテンツを少しずつ充実させている。例えば、展示交流員おすめの展示といった今まで博物館から掲示している情報ではないソフトな内容も追加してより親しんでもらえるよう進めている。

重点事業4-3「社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長」

地域の方や他の機関と一緒に研究、連携事業を行った。展示室の全面的な更新は難しいが、事業的な、イベント的な要素を取り入れて新しい内容の展示を行っている。

【事業目標3・4についての質疑応答】

○委員：守山市の図書館で、自分が借りた本が蓄積され、それが通帳のように残る仕組みの図書館通帳という取組をしている。子どもはすごく意識して、楽しみにして使っている。双方向な関係として残る取り組みかと思うので参考にされたい。

○事務局（事業部長）：来館者は家族が多く、子どもたちも来ますが、中学生になるとほとんどこないという状況がある。子どもたちが、少し大人になった時に、昔の自分が感じたことを見返したり、継続的に中学生になっても来館するきっかけになるようなアイデアをいただいた。滋賀県では知事がこども政策を強く打ち出していることもあるので、そういう事業の展開も考えたい。

○委員：企画展示のチラシを見たが、ある程度興味のある方向けになっている。博物館の中で、全年齢にささるような仕掛けがあるといい。低年齢層向けにキャラクターが語ったり、中学生には生態系などのキーワードがささる。高齢の方にささるようなことが、水草が肥料にされていたこととか、昔の魚の呼び方とか、各世代がどういうことに注目するのか、ということがあって、他の人々にとってはどうか、ということを考えることで、裾野が増えていくのではないか。

○委員：企画展示を見させてもらったが、お絵かきコーナーや、塗り絵コーナー等、子どもたちはそういう参加するとか体験することが大事。例えばどこかにうおーたんがいて、子ども向けの説明があってもいい。総合研究の成果ということで自分には見ごたえがあ

ったが、各年齢層に心に刺さる部分があってもいい。

○事務局（研究部長）：関連展示として、水族展示で水草の展示をしているが、子どもたちの意見が「何もいない」という感想であった。水草は環境を示すもので、魚などの生き物がいない展示と捉えられているようだ。

○委員：3分間トークはどういう内容か。

○委員：関連して、3分間トークをしたものとしての意見としては、有意義なものではあったが、セミナー室ではなく、ホールで実施し一般の来館者に聞いてほしい。

○事務局（環境学習・交流係長）：3分間トークは、一般の来館者だけではなくて、グループどうしで交流を深めることを重点的に行いたいと思っていた。ホールでは雑音が大きいななどの意見があり、セミナー室に変更した。

○委員：内容のことではなくて、参加者同士はある程度繋がっている中で、外向きに活動を知ってもらいたいという趣旨だと思う。活動をしていても見えない、ということが不満なのかなと思う。

○委員：ポケット学芸員について英語の音声ガイドがつき、次に中国語なのは、何か基準があるのか。

○事務局（展示係長）：言語については、きちんとした分析をしているわけではない。英語、中国語は館内の学芸員にネイティブな方がいるため作りやすい。

○委員：ポケット学芸員だが、高齢者には難しい。若い人が利用しているか。それとどのような評価今得られているのか。

○事務局（展示係長）：利用調査についてはできていない。館内のネット環境が悪い箇所があり、まだ100%使えるようにはなっていない。設備投資がある程度できた段階で利用者のアンケートで調べていきたい。

○委員：Instagramはやっているのか。

○事務局（企画・広報営業課長）：アカウントはあるが、まだまだ改善の余地があるかと思う。

【事業目標5・6についての説明】

○事務局（企画・広報営業課長）：事業目標5について説明。

事業目標5「より多くの人利用する博物館へ」

重点事業5-1「ICTを利用した琵琶湖博物館の魅力とその入口としての博物館の紹介」

博物館の紹介については、琵琶湖の特徴がわかるページを博物館の公式ホームページに作成した。琵琶湖の大きさや流入河川の数等数値だけでなく、生き物の写真や図なども使ってわかりやすいページとしている。SNSについては、フェイスブックやエックスを中心として博物館の様々な活動紹介を週1回以上行った。多くの情報発信により登録者も徐々に増加しているところ。また英語による発信も始めている

重点事業5-2「双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映」

12月に過去15年間のアンケート調査を集計した。現在はその分析と評価について検討しているところ。

重点事業5-3「来館しやすい環境の整備」

駐車場から博物館までの経路について、分かりづらいということなので、引き続き良い方法を検討しているところ。

事務局（総務課長）：事業目標6について説明。

事業目標6「博物館の活動を安定して継続する」

重点事業6-1「老朽化した施設の改修と災害への備え」

ハード面では水族展示室入り口付近のトイレの修繕の実施、今後の設備修繕のための調査を実施した。今年度の予算では、トラックヤードのシャッター、エスカレーターやエレベーターの更新設計を実施する。

ソフト面については、設備ではなく、どのような体制づくりをするか、ということで、大雨や地震など、災害があった際の危機管理体制の整備に着手した。

重点事業6-2「安定した活動基盤を確保する仕組みづくり」

昨年度は大きく2つの新しい取り組みを進めた。水槽の破損事故を機にクラウドファンディング、それ以外に水族展示に対する寄附支援制度を新たに作った。

○委員：災害時の訓練は、こういった災害を想定して実施されたのか。

○事務局（総務課長）：地震が発生した時の初動訓練と実際に火事が起こったことの前提にたって、来館者の皆様、職員を含めて、どのように誘導して避難場所まで移動していくのかということを取り組んだ。

○委員：そういった訓練が、水槽の破損という事故が起こった時に役に立ったのか、訓練後に改善したという点があれば教えてください。

○事務局（総務課長）：水槽の破損については、開館する前であり、幸い来館者に影響は

なかった。今回の訓練では、来館者がいる前提で破損が発生したということで実施している。

○委員：予算取りなどの計画、課題の現状報告をお願いしたい。

○事務局（総務課長）：修繕計画について、事前に建物の現状をしっかりと説明して、どういう状況になるのかということ理解してもらい予算が付くという段階となる。今年度は昨年度実施した老朽化状況の調査を踏まえて、財政課と調整を進めていきたい。

○委員：雨漏りは大きな課題ではないか。

○事務局（総務課長）もちろん課題である。他にもたくさんあるので、優先順位をたてて計画していく。

○委員：クラウドファンディングを始めますの会見はあったが、たくさんの方が寄附をくださって、こんなに集まりましたっていう会見もするべきではないか。施設改修は県全体の問題なので、知事へのアピールが重要になる。支援者が多いとかファンが増えたというようなことを、知事会見で言うてもらおうことのレクチャーでそのことを伝えるチャンスがある。知事には、こんなにたくさん来館者がいて、職員さんがこんなに苦労されている等、あまり響いてないように思う。

○事務局（副館長）：クラウドファンディングについては、稼ぐというよりも、皆さんからの応援を皆さんの見える形で集め、どういう形の水槽がいいかというようなことも含めて、クラウドファンディングに着手させてもらった。小さな額でもいいし、たくさんの方々にご支援いただきたいという趣旨でやっている。支援者からの熱いメッセージ、水族への応援メッセージもいただいているので整理して、知事にも見てもらいたいと思う。子ども、子ども、子どもと知事が提唱しているが、博物館の取組で子ども施策を相当やっている。そこの看板を変えて、子ども施策として打ち出すことで、知事からの評価も変わってくる。雨漏りの話があったが、展示室内はリニューアルしたが、やかたの部分は改修できていない。先日の雨漏りでも残っているスタッフ総出で対応いただいた。滋賀県に来られた来賓はその多くが琵琶湖博物館に視察に来る。そんなところで雨漏りしてもいいのか。しっかり整理して報告をしていきたい。

○委員：数字でみる琵琶湖博物館の活動について、学校教育や子ども施策に関係する部分については、分けて示したほうが知事に伝わるのではないか。博物館の応援団の先生を増やしていくことを、研修などでできることがある。免許制度がなくなった代わりに、

受けた研修について評価するような制度になっており、先生が研修を受けると、琵琶湖博物館サポーターの先生に認定されるとかがあれば、気持ちが変わってくると思う。

事務局（副館長）：数字でみる琵琶湖博物館は1枚にまとめているが、年報にはもっと細かく示しており、区分けは変えることもできるので検討したい。交流の部分は力をいれるという意見があるが、博物館準備室の時代から交流は大事にしている。地域の人たちと一緒に学ぶ事で教えてもらうことも多い。今は簡単に区分けしているが検討する。教員研修については、たくさん来てもらっている。教員研修については博物館にいる教員に考えてもらおうと思う。

○委員：広報専門のプロデューサーを雇えないか。学芸員は研究の時間を十分とれているか。

○事務局（副館長）：PRをプロの目線で、というのはやっていきたい。出し方について、研究調査を知ってもらいたい、ということがあるので、キャラクターの活用などで一過性であってもアピールすることが大事かと思う。広報営業戦略を今年度つくって進めていこうとしている。長期計画の中で年次計画を立てながら、まず我々ができることをやっていきたい。

○事務局（研究部長）：いろいろと調べて消化された部分を皆さんにお伝えすることができるとい形なので、背景としては何十、何百時間というのがある。研究専念日を設けてやっているが、時間が細切れになるということが困る。なるべく細切れにならないようにすることも必要かと思う。

○事務局（館長）：プロデューサーのような役割ができるような人がいれば、我々では気付かないこともあると思う。広報の委託で、専門の業者にPRしてもらっています。予算的にはずっと継続はできないこともある。博物館での人材については、どこの博物館でも人が足りない、という悩みを抱えているところが多いので、文化庁ではそういった人材を雇うような仕組みを考えているようなので、それをうまく使いながら、やっていきたいと思う。

○会長：本日の意見交換を受けまして、外部評価のまとめ方について

外部評価の記入票について、今説明を受けました内部評価のご項目をもう一度見直し、今日の意見交換の内容も踏まえて、ご記入いただきたい。

○事務局（企画・広報営業課長）：8月19日までにいただきたい。

4 その他

○委員：水槽の破損事故はたまたま人がいなかったという回答があったが、そういう意味ではなく、人がいた場合にはどうするのか、ということを考え、訓練を実施する必要がある。雨漏りについても、そういうところを苦労されているとか、みんなで支えています、ということをSNSで出せればいいんじゃないかと思う。学芸員さんの作るポップとかそういうことも含めてSNSで発信してほしい。

○委員：災害への対応について、我々事業者は義務化されていますが、博物館はBCPをつくる義務はあるのか。

○事務局（副館長）：義務はないが、今作ろうとしている。水槽が破損したとき、幸いお客さんはおられなかった、スタッフもいなかったが、相当離れた壁に破片が刺さっているぐらいなので、お客さんがおられたら、大惨事になっていたのは間違いない。それも踏まえて、BCP（Business Continuity Planning：事業継続計画）や、消防対応のマニュアルを、地震とか火災とか、災害バージョンに合わせたものを再整備しているところ。それを踏まえて、我々だけではなく、お客さん、来館者の皆さんに安全確保してもらい、展示交流員も含め率先して誘導してもらわないといけないので、一緒に訓練したり、情報を共有して、安全を確保したいと思う。今回停電していたことも再開したことも、SNSで発信をした。琵琶湖博物館をどんどん露出していきたいと思う。

5 閉会

以上